



竹取新聞

発行所
株式会社 カグヤ

第154版

20周年
感謝号

今月号はカグヤクルーが
20年分の感謝を綴ります

平素より弊社の商品をご愛顧頂きましてありがとうございます。この新聞は、「子ども第一義」の理念のもとに活動しているカグヤクルーの日々の出来事・内省を発信することで、皆様の保育に少しでもお役に立てればと始めたものです。記事中はそのまま実践を表現することを優先し、乱筆乱文で恐れ入りますが、何卒ご容赦くださいますようお願いいたします。

カグヤクルーブログも
毎日元気に配信中！

カグヤウェブサイト



www.caguya.co.jp

「聴福庵」の情報はFacebookで

f 神家絵本家 聴福庵

保育に出会えて

20周年を迎え、改めて社員全員で創業からこれまでに振り返る時間を持ちました。出会った全てのお客様に支えられ、育てて頂いたことでここまで来られたこと。そして関わった全てのスタッフが積み上げてくれた歴史があり、今の自分たちがいること。微力ながらお客様のお手伝いをさせて頂いていることは当たり前ではない、感謝しかありません。

これまでお客様からは様々なお声を頂きました。優しい声、厳しい声、楽しい声、悲しい声。全てのお声に、自分たちがどう変わっていかれば良いかのヒントがありました。

弊社の理念である「子ども第一義」を表す言葉の一つに、「子どもの幸せが世界を変える」があります。この「子どもの幸せ」を守るためには、それを見守る「大人の幸せ」あつてこそということ。これも日々保育の現場で命がけで子どもたちを守って下さっているお客様から教えて頂いたことです。

これからの様々な角度から頂く声を聞き逃さず、向き合っ

(眞田由莉)

4月11日、20周年を迎えられたことに感謝し、20周年イベントを実施しました。それぞれのクルーからカグヤと出会った経緯や当時の思い出を聞き、お客様とのエピソードなどを語り合う時間を設けました。

これまでも時折、代表の野見山からカグヤ起業の経緯を聞くことはありましたが、起業当初のエピソードでは初めて聞く内容が多くありました。クルー全員で改めて一から聞いたことのお客様に支えられての20年があり、その時々にも働いていたクルーがいて、今のカグヤがあることを感じました。

保育のことを何も知らず働きはじめた私も勤続11年を迎えました。先生方から保育の楽しさや面白さを学び、同時に真剣だからこそ立ちほだかる苦悩を目の当たりにしてきました。先生方のそのお悩みに自分は寄り添えているのだろうか？ とも思います。ある園長先生から「保育の仕事は子どもたちが卒園する15年、20年後を見据えて、今子



子どもたちのように私達も成長を続けられるよう精進します！

どもたちに必要な体験を用意しています」という一言を聞いた時、保育の奥深さに痺れました。保育のことを何も知らなかったからこそ、先生方から「保育」の仕事の意義を教わり、知れば知るほど子どもたちの未来を創る仕事に携わらせて頂いていることに感謝の気持ちが湧いてきます。また、カグヤの理念「子ども第一義」の元、子どもたちの未来に繋がる働きをしていきたいと改めて感じています。たくさんの方のご縁を頂き今のカグヤがあることを忘れず、今後も社業に励んでいきたいと思っています。(奥山卓矢)

今までとこれから

創業20周年イベントを行うにあたり、3月の段階でどんな会にしようかと話し合った時に「20周年を迎えることができたのはなぜだろう」「何のお陰なのだろうか」という機会がありました。

その際に改めて気づくのは、この20年間、カグヤを育ててくださるお客様のお陰様であること。そしてまた、別の会社で働くこととなったクルーも含めて、共に働いてきた仲間たちのお陰様であること。「保育の道」をその生き様で見せてくださり、また「見守る保育」を通じて人生を豊かにしてくださった藤森先生のお陰であることに気づきました。

そこで、「皆でこの20年を『感謝』と『お陰様』を切り口として振り返る」ことをテーマに20周年を祝う会を行いました。創業のきっかけや、一番最初のお客様とのことや、新しいサービスが生まれるきっかけ、理念経営に切り替えた時に起きた事件、様々なことを振り返る度に、今があるのは本当に皆様のお

陰なのだと、初心を思い出すかのような彩り鮮やかな感覚を体験しました。また誰かの振り返りが、新しいクルーにとっては初めて知る機会ともなり、さらに感謝の輪が広がっていく姿は非常に豊かで重要な場だと感じました。

どんな時も、このお陰様を忘れたくはないからこそ、これからの10年も社業の中に「感謝とお陰様で振り返る場」をしっかりと組み込んでいこうと思います。

年齢別や先生主導の保育ではなく、子ども主体の保育が当たり前となる世の中を目指して。そして子どもたちが憧れる生き方と働き方を探求して、これからは邁進していきたいと思えます。今後ともどうぞよろしく願います。

(眞田海)



20年の節目



20周年の節目には「理念ブック」の確認も行いました！

おかげさまでカグヤは創業20周年を迎え、社内ではお祝いと共に、これまでのカグヤ史を振り返り、これから大事にしていきたいことなどを確認し合う場を設けました。

その中で、改めて今ここにいる人だけではなく、たくさんのお客様や子どもたち、そし

幸せな場作りを

お客様のおかげさまで、カグヤは20周年の節目を迎えました。

私は3年前まで保育園に勤務しており、カグヤの研修を受ける側にいました。余裕のない毎日でしたが、一円対話は全職員との大切な

ご縁に感謝しながら

先日、社内での二十年を振り返る機会がありました。そこには創業からの様々なエピソードとともに貴重な出逢いがたくさんあり、その一つひとつがご縁となって今日に繋がっていることをみんなで確認させていただくことができました。偶然を装ったその時々のご縁が見事に繋がりが合って、皆さんにここまで導いていただいたことを実感しています。同時に、これまでの道のりには、子どもたちをどこまでも信じ、子どもたち一人ひとりのいのちの輝きに学ぼうという先生方の温

てこれまでカグヤで働いてきた方々や支えてくれている取引先や家族など、本当にあげればきりが無いほどの存在が目に見えかけます。そうした全ての方々、環境、出来事のおかげで今の私たちがあることを感じさせていただきました。

特にお客様の存在は大きく、先生たちの子どもを思うまっすぐな気持ちやあたたかな見守りから学ばせて頂くことばかりで、本当にたくさんの方々の勇気と励ましを頂きながら、自分も「子どもが憧れる生き方」を目指し続けてこれたことには感謝しかありません。

このご恩を胸に、今後も理念と初心を大事にしなが、子どもも大人もみんなが幸せになる道を追求し、心新たに挑戦を続けていけたらと思います。これからも引き続き、宜しくお願いいたします。

（宮前奈々子）

コミュニケーションの場であり、職域を越えた共有の場でした。また、子どもを見守る姿勢の振り返りができる時間でもありました。

これからもお客様が楽しい保育環境で子どもと共に幸せな時間が過ごせるような場作りを目指して。21年目もどうぞ宜しくお願い申し上げます。

（村田 智子）

かい眼差しが常にありました。おかげさまで私たちも「子どもたちが憧れる生き方」を目指して、先生方と一緒に「見守る保育の道」を歩ませていただくことができました。

これまでいただきました無数の恩徳に少しでも報いることができますよう、「各園様の理念」という場で先生方お一人一人の「保育への初心」が輝くような「楽しい場づくり」に尽力してまいります。引き続き宜しくお願いいたします。

（藤堂 昌恒）



創業20年を振り返り

カグヤを起業してから、今年で21回目の四季をめぐるらせていただいております。ここまで続けてこられたのは本当に奇跡のようで、お客様はじめ多くの方々とのご縁と見守りとご指導の御蔭です。この場をおかりして心から感謝申し上げます。

改めて起業した頃のことを振り返ってみますと、満を持してというわけでもなく周囲から押し上げられるように会社をつくることになったのを今でも覚えています。その頃は夢や希望だけで他にはほとんど何もなく、まさに裸一貫からのスタートでした。ただ一生懸命にやっているうちに次第にお客様とのご縁が増え、事業も増え、スタッフも増えていきました。

数年後、利益が増えたのですが、子どものためにこのままでもいいのか本当の子どものためとは何なのかと命懸けで悩みました。そしてそこから「子ども第一義」という理念を定め、保育の道に適った子どもの憧れる生き方をしようとクルーと一丸となって取り組み、今もその途上です。

もともとカグヤという会社の名前の由来は、かぐや姫の竹取物語から名付けたものです。千年以上、作者不詳で語り継がれて子どもたちに愛され続ける竹取物語のように、いつまでも子孫に語り継ぎたいくなるような物語をつくろうと名付けたものです。そのかぐや姫のシンボルは竹です。この竹にはたくさんのお節目があ



ります。この節目があることが素直で柔軟にしなやかに逞しく育ってきた成長の証です。私たちのカグヤ人生はその竹に倣い、事件ばかり、感動ばかり、ご縁ばかりの美しい季節に彩られた本当に仕合せな20年でした。この20年の御恩に報いるため、自分たちの喜びをみなさんの喜びにしていけるようにさらに徳を積んでいく所存です。

これから時代がまた新たに過ぎていきます。私たちの先祖たち全員は、自分たちよりも子孫が不幸になってほしくないなど願ったことは絶対にあります。今の自分たちが与えられてきたように、さらに仕合せになる世の中を子どもたちには譲り遺してほしいと心から未来を託し願ったはずです。その願いは、私たちのいのちの中でいつまでも一緒に生き続けています。

子ども第一義、子どもの憧れる生き方を通してこれからも感謝を磨き、子ども第一義の理念を実践し、千年先の未来から今に逆算をして私たちにしかできないことをやり遂げていきたいと思っています。

株式会社カグヤ創業者 神家本家初代当主 野見山広明 拝

カグヤは「子ども第一義」の理念を実践し、お客様の発展と自立に貢献していきます

